

## 第3学年 国語科学習指導案

河内長野市立小山田小学校

指導者 新田 公実子

山本 敏成

1. 日 時 令和6年 11月28日(木)第5時限 14:00~14:45

2. 場 所 北校舎 2階第3学年 1組教室

3. 学年・組 第3学年 1組(36名)

4. 単元名 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう(読むこと 書くこと)

5. 教材名 「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」(光村図書)

### 6. 単元の目標

- (1) 比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。[知識及び技能](2)イ
- (2) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。  
[知識及び技能](3)オ
- (3) 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。[思考力、判断力、表現力等]B(1)イ
- (4) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。  
[思考力、判断力、表現力等]B(1)ウ
- (5) 目的を意識して中心となる語や文を見つけることができる。[思考力、判断力、表現力等]C(1)ウ
- (6) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

### 7. 言語活動

- ・筆者の説明の工夫を見つけ、すがたがかわる食材について説明する文章を書く。

### 8. 教材観

「すがたをかえる大豆」は、全体が「初め」「中」「終わり」で組み立てられ、「はじめ」の話題提示を受けて、「中」で大豆をおいしく食べるための工夫を五つの例で説明し、「終わり」で筆者の意見を述べる構成の文章である。接続語からまとまりや説明の中心となる文を捉えられ、段落相互の関係を考えながら筆者の説明の工夫を見つけることができる。また、写真資料も効果的に使われている。

「初め」には、「問いの文」はなく、「話題提示」の形であること、段落相互の関わり方等、これまでの説明文教材と異なる点もある。

大豆食品は、日常的に食べる機会が多く、児童にとって身近な食べ物の一つである。しかし、大豆の加工食品は、見た目からは大豆からできていると想像できないものも多く、児童に驚きや知る喜びを与える内容である。

また、「こまを楽しむ」同様、事例の順序には筆者の意図が表れている。そうした順序について考えることや、筆者が読み手に分かりやすいようにどのように工夫して書いてあるかを読み取っていくことが、後の自分の興味をもった食品について書くことにつながる教材である。

児童は、3年上巻「文様」「こまを楽しむ」で、「初め」「中」「終わり」というまとまりや、「中」の事例の述べ方に注意して読むことを学んでいる。本単元では、既習事項を確認しながら、事例の選び方やその順序性に関して、読み手として着目したり、書き手として分かりやすい文章を書いたりできるようにしたい。

### 9. 児童観

児童は、これまでに2年生の時の「おもちゃの作り方をせつめいしよう」の学習で、自分が紹介したいおもちゃを順序が分かるように書いている。また3年生1学期の説明文「文様」では、学んだ書き方の技を活用しながら、自分の身につけてみたい文様と「文様のねがい」に合う選んだ理由を文章にまとめている。書く際に、まとまりを意識して「初め」「中」「終わり」に段落を分けることができる児童が増えてきた。また、選んだ理由を書くことができるようになってきた。しかし、自分の考えを文章にすることに苦手意識を持っている児童や、選んだ理由と特徴(文様のねがい)が合っていないことに気づけない児童もいた。また、例文など構成を考える手立てがないと書けなかったり、相手に何を伝えたいのか相手意識をもって適切な表現方法や構成を考えたりすることができていない。

本単元においては、「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる」を重点的に指導する。「すがたをかえる大豆」では内容の中心がどのように書き表されているか、段落相互の関係や、事例の順序に表された筆者の意図を考えながら学び、自分で書く時の構成を考える際に活かせるようにする。また、自分が伝えたいと思う食品を選ぶことで、どう書いたら相手に分かりやすく伝えることができるか意欲や相手意識をもって構成を考えたり書いたりできる児童になってほしい。

### 10. 指導観

本単元では、「筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章を書く」という言語活動を設定している。総合で食育も絡めて、栄養教諭の車谷先生から大豆についての話を聞く。第2時から第6時は、説明文「すがたをかえる大豆」を読んで、筆者の説明の工夫を見つける。第7時から自分の選んだ食材について調べ、説明する文章を書く。

第1時では、「すがたをかえる大豆」の初発の感想を書く。食べ物のひみつを調べて文章に書くゴールを知る。食べ物のひみつブックを作り友だちに発表した後、図書室に置いてもらい、他学年の児童に読んでもらうことで意欲をもたせる。第2~第4時では「初め」「中」「終わり」の文章の構成を捉え(構

造と内容の把握)、書かれていない「問い」を考えて、「中」の「答え」を見つけていく。(精査・解釈)その際、段落の中心となる文や、接続語に注意して読んでいく。第5時で筆者の説明の工夫や、説明の順序の意図を考える。(考えの形成)第6時「食べ物のひみつを教えます」では、学んだ筆者の書きぶりをいかして、自分たちが伝えたい食材を調べていく計画を立てる。第7時第8時で調べ、必要な情報を取り出してマッピングにし、それ3つに絞って表に整理して文章を組み立てる。第9時で筆者の分かりやすい説明の仕方をふり返り、同じ食材を選んだ児童と説明し合うことで、自分の説明を分かりやすく見直すきっかけとする。第10時の本時では、筆者の工夫を生かして自分が選んだ食材を紹介する文章を書く。その際、3つをどの順番で紹介することが効果的か考えたり、段落や中心となる文の位置に注意できたりするように、例文やチェックポイントを示す。第11時で推敲し、第12時に友だちと読み合って交流する。

説明文「すがたをかえる大豆」で文章の構成を押さえ、筆者の説明の工夫を見つける。そして、事例の順序について考えさせることで接続語の理解や筆者の意図に気付かせる。見つけた説明の仕方の工夫を生かして、伝えたいと思う食べ物の説明を相手に分かりやすい書き方を意識して文章に書けるようにしたい。

今年度、「自分の考えをもち、表現できる子どもの育成をめざして」というテーマで、「考えを形成する力」をつけるための授業づくりに重点を置いている。本校では、集めた情報を基に、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、意見をまとめることができる6年生の姿を目指している。その過程として、3年生は自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして工夫して書き表す力をつけていきたい。そのためにこの教材では①事例の順序に着目して構造と内容を把握させる。②比較することや筆者の考えとどうつながっているのか考えながら「中」を読ませる。(精査・解釈)③共有では、友達や自分の考えのよさを発見することを大切にする。

### 11. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。(2)イ ②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 B(1)イ ②「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。B(1)ウ ③「読むこと」において、目的を意識して中心となる語や文を見つけている。C(1)ウ	目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しを持って筆者の説明の工夫を生かした文章を書こうとしている。

### 12. 単元の指導と評価の計画(全12時間 本時 10/12)

	学習内容	学習評価(◎記録に残す評価○指導に活かす評価)			
		知技	思判表	主体	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●単元扉や題名から文章の内容を想像する。大豆食品について知っていることを出し合う。</li> <li>●単元の目標と、食べ物のひみつを調べて文章に書くというゴールを知り、学習の見通しを持つ。</li> <li>●「すがたをかえる大豆」の範読を聞き、大体的内容を捉える。</li> <li>●初発の感想を書く。 ・一番驚いたものや知りたいと思ったことを書く。</li> </ul>		○	○	<行動観察・ノート>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●栄養士の車谷先生から、大豆の話聞く(食育・総合)</li> <li>・大豆の加工食品の実物や写真などを提示し、興味をもたせる。</li> </ul>				
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全文通読をする。</li> <li>●段落分けを確かめ、文章の構成を捉える。</li> <li>・児童の初発の感想からつなげる。</li> <li>●各段落の役割を考えながら「初め」「中」「終わり」に分け大まかな内容を表にまとめ捉える。</li> <li>・「初め」「中」「終わり」のそれぞれの役割を既習事項から思い出したり、工夫と食品に注目したりして表にまとめる。</li> </ul>		③○		<行動観察・ノート>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大豆に手を加えるときの言葉を調べて意味を確かめる。</li> <li>●「初め」を読んで、文章の説明内容にあった「問い」を考える。</li> <li>・これまでに学習した説明文をふり返り問いを考える。</li> </ul>	①◎	③○		【知・技】 辞書の使い方を理解しているかの確認 <行動観察・ノート>

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●それぞれの段落で中心となる文や接続語に注目して「中」の書かれ方について考える。(「答え」(おいしく食べる工夫)に赤線を引く。食品に青線を引く。マッピングで表す。)</li> </ul> <p style="text-align: right;">精査・解釈</p>	③◎		<p>【思・判・表③】中心となる語や文を選び出しているかの確認。</p> <p>〈行動観察・ノート〉</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「中」の書かれ方の順序について考える。</li> <li>・姿をかえる工夫に注目し、例の順序に筆者の意図があることに気付く。</li> <li>●終わりの部分を読み、筆者の伝えたいことを考える。</li> <li>●説明の工夫をまとめる。</li> <li>・今後の学習で説明する文章を書くために、文章の組み立てや言葉や写真の使い方、筆者の意図を理解する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">精査・解釈 考えの形成</p>	③◎		<p>【思・判・表③】「中」の段落相互の関係や叙述に着目して事例の順序や説明の工夫を捉えているかの確認。</p> <p>〈行動観察・ノート〉</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大豆の説明の工夫をふり返り、P54の事例の工夫を見つける。</li> <li>●「食べ物のひみつを教えます」を読み、学習計画を立てる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">精査・解釈</p>	③○	○	〈行動観察・ノート〉
7	●食材を決めて調べる。	②◎		◎
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●選んだ資料の必要な情報に線を引く。</li> <li>●調べた内容をマッピングに書き(食材→おいしく食べる工夫→食品)3つに絞って表に整理する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">題材の設定 情報の収集 内容の検討</p>			<p>【知・技】</p> <p>読書に親しみ、調べる方法を知り集めた情報を図や表に整理しているかの確認</p> <p>〈行動観察・ノート〉</p> <p>【主】</p> <p>目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけたり、筆者の説明の工夫を生かした文章を書こうとしたりしているかの確認</p> <p>〈行動観察・ノート・ワークシート〉</p>

9	<ul style="list-style-type: none"> <li>●調べたことを同じ材料を選んだ友だち同士で説明し合う。</li> <li>●初めを書く。</li> <li>●説明に合った挿絵を描く。構成の検討</li> </ul>	①○		<p>〈行動観察・原稿用紙〉</p>
10 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わかりやすい説明の仕方をふり返る。</li> <li>●「中」の組み立てを考える。</li> <li>●「中」の文章を書く。</li> <li>・表を基に相手に分かりやすい文章を書くように意識させる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">構成の検討 考えの形成 記述</p>	①◎ ②○		<p>【思・判・表①】</p> <p>書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、書き表し方を工夫しているかの確認。</p> <p>【思・判・表②】</p> <p>自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているかの確認。〈行動観察・原稿用紙〉</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「終わり」を書く。</li> <li>●チェックポイントを確認する。</li> <li>●書いた文章を読み返して推敲し清書する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">考えの形成 記述 推敲</p>	②◎		<p>【思・判・表②】</p> <p>自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているかの確認。〈行動観察・原稿用紙〉</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文章を読み合い、感想や良いところを伝え合う。</li> <li>●学習をふり返る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">考えの形成 共有</p>	②◎	◎	<p>【思・判・表②】</p> <p>自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているかの確認。〈行動観察・ノート〉</p>

13. 本時の展開（10時間目）

(1) 本時の目標

- ・ 選んだ食材について、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして構成を考えることができる。
- ・ 自分の考えを支える理由や事例について、書き表し方を工夫して書くことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・ 選んだ食材について、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして構成を考えている。 【思考・判断・表現①】 [記録に残す評価]
- ・ 自分の考えを支える理由や事例について、書き表し方を工夫して書いている。【思考・判断・表現②】 [指導に生かす評価]

(3) 本時の判断基準

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「初めに」「次に」「さらに」という接続語を適切に使い、段落を分けて文章を考えている。</li> <li>・ 1つの段落に1つの工夫を考えている。</li> <li>・ 1文目に工夫、その後に具体例を書こうと考えている。</li> <li>・ 事例や順序を工夫している。</li> </ul> <p>【思・判・表①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書の例で確認させる。</li> <li>・ 自分の調べた材料が教科書の例のどれに当てはまるか考えさせる。</li> <li>・ マップの図を参考にさせる。</li> <li>・ ワークシートや掲示物、工夫に赤線を引いた教科書でふり返る。</li> </ul> <p>【思・判・表①】</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「初めに」「次に」「さらに」という接続語を適切に使い、段落を分けて文章を書いている。</li> <li>・ 1つの段落に1つの工夫を書いている。</li> <li>・ 1文目に工夫、その後に具体例を書いている。</li> <li>・ 事例や順序を工夫して書いている。</li> </ul> <p>【思・判・表②】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書の例で確認させる。</li> <li>・ 自分の調べた材料が教科書の例のどれに当てはまるか考えさせる。</li> <li>・ 接続語を事例1つずつに当てはめ、段落に分けるとよいことを伝える。</li> <li>・ 段落を分け、接続語を選べる原稿用紙を用意して段落ごとに書く意識づけをする。</li> <li>・ 一文目を一緒に書く。</li> </ul> <p>【思・判・表②】</p>

(4) 本時の学習過程

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>①前時までの学習をふり返る。</li> <li>②「いろいろなすがたになる米」を音読する。</li> <li>・ ゴールや本時の学習課題を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書き方を確認しながら音読する。</li> <li>・ 説明の工夫をふり返る。</li> <li>・ 自作の「食べ物のひみつブック」を図書室におき、たくさんの人に読んでもらうことを伝え、目的意識・相手意識を持たせる。</li> </ul>	
展開 5分	<p>◎おいしく食べるくふうや食品のれいをあげて、わかりやすく説明する文しょうを書こう。</p>		
20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>③「いろいろなすがたになる米」の文をもとに、例の順序について確認する。</li> <li>④「中」の部分を説明する順序をペアに伝える。</li> <li>⑤「ポイント」に気をつけて「中」の部分を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例文の順序を確認し、文章を書く見通しを持たせる。</li> <li>・ 自分の文章の書く順序を考え、表に番号を書く。書く順序とその理由をペアに伝える。</li> <li>・ 「ポイント」に気をつけて「中」の文章を書くことを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎一つのだん落に一つのくふう</li> <li>◎じゅんじよを表すつなぎ言葉</li> <li>◎中心となる文(答え)がだん落のさいしょ</li> <li>◎じゅんじよを考える</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原稿用紙を2種類用意する。</li> <li>・ 児童がどのように例を整理しているかを机間指導しながら把握し、適宜支援を行う。</li> <li>・ 「すがたをかえる大豆」や「食</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切な事例を選び、順序に気をつけながら、接続語を適切に使って文章を書いている。思①(発言・記述)</li> <li>【記録に残す評価】</li> <li>・ 自分の考えを支える理由や事例について、書き表し方</li> </ul>

8分	⑥書いた文章を読み直す。  ⑦書いた文を友だちと読み合い、気づいたところを助言し合う。	べ物のひみつ教えます」の文章を参考にして書くように声かけをする。 ・表を基に相手に分かりやすい文章を書けるように意識させる。 ・「ポイント」を自分で確認しながら声に出して読み、直す。  ・ペアで読み合い、「ポイント」をもとに確認し合わせる。	を工夫して書いている。 思②(発言・記述) 【指導に生かす評価】
まとめ4分	⑧本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	・全体にいくつかの文章を紹介する。 ・次の時間は「終わり」を書き、発表することを伝える。	

板書計画

ポイント

見直そう



⑥おいしくたべるくふうや食品のれいをあげてわかりやすく説明する文章を書く

食べ物のひみつを教えます

一つのだん落に一つのくふう  
じゆんじよを表すつなぎ言葉  
中心となる文(答え)がだん落のさいしょ  
じゆんじよを考える  
順序を決めよう

いろいろなすがたになる米  
原 ゆうた  
米には、いろいろな食べ方のくふうがあります。まず、米その形のままで食べて食べるくふうがあります。米をどいて、水につけてからたくと、こはんになります。次に、むして食べるくふうがあります。もち米という米をむして、うすどきねてつとど、もちになります。もちつきのかきいを使うこともあります。さらに、こなにしてお食べるくふうもあります。もち米をこなにしたものに、水を入れて練ります。それをゆでると、白玉になります。このように、米は、くふうされて、いろいろなすがたになっ

ゴールの文章例

○教科書



いろいろなすがたになる米  
原 ゆうた  
米には、いろいろな食べ方のくふうがあります。まず、米その形のままで食べて食べるくふうがあります。米をどいて、水につけてからたくと、こはんになります。次に、むして食べるくふうがあります。もち米という米をむして、うすどきねてつとど、もちになります。もちつきのかきいを使うこともあります。さらに、こなにしてお食べるくふうもあります。もち米をこなにしたものに、水を入れて練ります。それをゆでると、白玉になります。このように、米は、くふうされて、いろいろなすがたになっ

○教師作成例

いろいろなすがたになる魚

日本は、海にかこまれているので、昔から魚をたくさん食べてきました。魚はえいようがほうふですが、すぐにいたむので、昔からいろいろな手を加えておいしく食べるくふうをしてきました。魚をおいしく食べるために、どのようなくふうがあるのでしょ

う。

一番わかりやすいのは、魚をその形のままで開いてほしくふうです。ほしてかんそうさせると、ひものになります。生のままよりあじがこくなり、長持ちします。私はちりめんじゃこが大好きです。

次に、身をすりつぶして食べる工夫があります。すりつぶしたすり身を板に乗せむすと、かまぼこになります。やくとちくわ、あげるとさつまあげになります。

さらに、いぶしてほして食べる工夫があります。けむりでいぶし、かつおぶしカビをつけてはっこうさせ、ほしてかんそうさせると、かつおぶしができます。けずったかつおぶしは、日本料理のだしにかかせないうまみがあります。

このように、魚はいろいろな姿で食べられています。わたしは、さしみや焼き魚も好きですが、じゃこやおみそしるに入れるかつおぶしなど、毎日の食事に魚がくふうされているいろいろな姿になって食べられていることを知っておどろきました。えいようほうふな魚をこれからも食べたいです。

